

報告者：井上（支援センターあさがお）

令和5年度 第3回 台東区障害者地域自立支援協議会(相談支援部会)報告

1 開催日

【定例会】：毎月第2水曜日 13:30～15:00

リモート開催 9/6、10/11、11/8 対面開催 12/6 (計4回)

(ただし、12/6は地域包括支援センターとの交流会を実施)

【連絡会】：3ヵ月に1回 定例会の前 13:30～14:30 11/8 (1回)

2 検討した内容

<相談支援部会 定例会>

(1) 令和5年度地域包括支援センター交流会について

12月6日(水)開催 38名参加

地域包括支援センターの職員とグループワーク形式で実施。それぞれの立場から「8050問題」にかかる業務の上での課題点や、有効な関わり方について意見交換をした。

(2) 検討テーマ「移動における支援」について

障害者の移動支援・通学支援の課題と今後の対応策について、各事業所の取り組みや他区・他自治体での実例を参考としながら、検討を継続した。

現状に合った解決策は、必要な支援に対する人手不足の問題を解消するという視点から、通学支援では、「まとめて送迎できる」「車両の問題が解決される」こと、移動支援では、「余暇活動ではなく、送迎に特化」「グループ支援を認めてもらう」ことではないかとの意見でまとまった。

現況、課題及び方策を一覧化し、問題点の共有を図ることとした。

(3) 令和5年度講演会について

「8050問題」をテーマに、講演会を開催予定。

日時：2月28日(水) 13:30～15:30

講師：浅草ファミリークリニック

精神保健福祉士 作間 聡 氏

<相談支援部会 連絡会>

各相談支援事業所の実績報告 令和5年11月

(1) 連絡会運営方法の変更

連絡会1回当たりのケース報告事業所数を減らしたため、それぞれのケース検討に時間をとれるようになり、より多くの意見や提案が出るようになった。

(2) 主なケース検討事例

○50代男性 精神障害

両親と同居していたが親子関係が日に日に悪化。暴力は確認できていないが、暴言があり警察沙汰もあった。現在関係団体施設の体験室を利用中。本人は働いておらず、両親は高齢化による影響が出ている。金銭的な余裕はない。区内の関連団体や保健所との折り合いが悪く、今後の支援の見通しが無い。

【現在】

1人暮らしを始め、8ヶ月程経過。ひとまずは落ち着いており、1人暮らしの大変さを実感してきている。両親同居時と比べ、揉めることは少なくなった。ただし、父とは滅多に話さなくなり、母とは必要最低限の会話しかしていない。

【今後について】

就労と生活の場を作り、1人暮らしを目標とすることにした。まず、自営業の実家で手伝いをして収入を得る。その過程で両親との関係改善も視野に入れているが、関係修復には時間がかかると思われる。1人暮らしで起きている問題について、本人に考えさせ、解決する手伝いをしながら就労継続支援B型への通所を検討していく。

【連絡会からの意見、提案】

- ・50歳で、就労先が家業や就労継続支援B型だとしても、そもそも就労意欲はあるのだろうか。まずは、社会参加に繋げてはどうか。
 - ・親が亡くなった後の生活、病気で入院となった場合、家に住めなくなった場合、金銭管理問題など様々な課題があり、明確な解決方法が見つからない。
- ⇒8050問題は、事例として取り上げることが増えているので、今後議題としていく。

○60代女性 統合失調症

【現状】

区内で一人暮らし。NHKの請求書が兄名義で届くが、兄は他区に住んでいる。NHKに連絡し、兄が住んでいないこと、本人に障害があるため、免除の申請をしたいことを伝え、就労継続支援B型の支援者にもサポートしてもらい、手続きを行う。また、都税事務所より自宅の名義変更について通知があり、父親名義のままであるとのこと（両親は他界している）。来年4月までに手続きをしなければ金銭の支払いが発生するとのこと、不安が強くなる。司法書士会の無料相談に連絡し、法務局に相続人届出をすれば過料を支払わずに済むとのこと、今後手続きを行う。

【課題】

手続きなどは一人では理解が難しいようで、行政等とのやりとりは支援者が仲介しな

いと難しい印象。親族のサポートは得られないため、その都度、支援者でフォローしていく必要がある。

【連絡会の意見、提案】

- ・後見人制度を本人が申告して利用するとよいのではないか。
- ⇒以前相談したが、費用がかかるため話が進まなかった。
- ⇒お金がなくても助成制度を利用するとよいと伝えるとよいのではないか。
- ※8050問題・お金・相続・病気などお金や権利に係る関わりは難しい。

○40代男性 性同一性障害・解離性障害・双極性感情障

【現状】

他区のグループホームを利用しており、本人が就労継続支援B型の利用を希望しており、計画を見直し、支給決定してもらった。しかし、サービス担当者会議を調整している段階で本人より、「本当は利用したくなかった。グループホームのスタッフに言われて、断れなかった。」等の訴えがあり、就労継続支援B型の利用には至らなかった。担当者会議を行った際にもグループホームのスタッフの対応に納得がいかず、後日区役所に苦情を申し立てた。解離の症状（解離性健忘など）があるため、本人の発言もその都度異なり、本人の意向を踏まえて支援しようと思っけていても、軸がぶれてしまう状況。

【課題】

本人と話したことをなるべく記録して支援を進めているが、解離症状がある方など記憶力の低さが著しい方への支援をどのように行っているか。

【連絡会の意見、提案】

- ・解離性障害での対応として、メインの方と話すようにして、本人と話した記録を動画や録音や一筆書かせるなどの対応をしたらどうか。
- ⇒以前本人がボイスレコーダーを使用し録音していた。有利な発言に変えていたが、こちらも導入を検討する。

○20代男性 愛の手帳 3度

【現状】

現在、他区のグループホームに入居中。障害雇用枠にて週4回勤務。グループホームから実家が近く、週末や地域でのイベントがあると外泊している。自立支援医療を利用しているが、主治医が脳神経内科の為、精神訪問看護の指示書が書けないという理由で、月2回自費で訪問看護を利用している。

【課題】

- ①グループホームの世話人や、他利用者へ暴言がある。（最終的には「ぶっ殺すぞ」と言う。）
- ②職場へ入社する時間が早すぎる。30分前から入社してよいと職場から言われているが、40～50分前に入社してしまう。（それだけが理由ではないが、以前勤めていた職場でも同等の理由で揉めてしまい、退職となった経緯がある。）朝、グループホームを出発する際に、世話人が「時間がまだ早いのではないか？」と声を掛ける

と、暴言を吐いてしまう。また、挨拶なしに出て行ってしまう。

- ③外泊が多く実家に帰りがち。当初は自立をしたいという理由で利用を開始したはずであるが、グループホームに入居している意味はあるのか。外泊が多いことに関して、他の利用者へ優位を主張する。

その結果、週末はグループホームに居ないので、イベントに参加できず、余計孤立しがちになる。

- ④グループホームの食事が口に合わず、同じメニューが多いので、食べたくないという。(自分が外食をする際は、同じようなメニューを選び、偏った傾向がある。)

【現在】

本人、家族、関係者を交えて担当者会議を開催し、現状の確認と整理をおこない、話し合いを経て方向性を決定した。基本的には、本人が穏やかに生活ができるようになるため、希望を考慮してストレスを軽減することを目的に調整をすることとなった。

- ①精神科（心療内科）へ通院する。

- ②朝、世話人に必ず挨拶をして出発。出発時間の変更は難しいので、バスを使わず徒歩で駅まで移動し、早く職場に着いたら、近くの公園で時間まで待機する。

- ③家族も外泊に関しては寛容な対応で、申請を早めにする、家族の了承無しに外泊の予定を作らないことにする。

- ④仕事が休みの日と土日は、朝と夕のグループホームの食事提供をなしにして、自身で買って食べる。職場でのメニューや、買ったものは写真に撮って訪問看護と世話人に見せる。

【結果】

- ①11月に予約を入れ、ご家族と一緒に通院予定。(その間暴言は減らず。)

- ②朝の世話人への挨拶は守れず、勝手に行ってしまうことが多い。

- ③話し合い通りになっている。

- ④写真を撮ることはほぼない。朝食提供が無くなったことにより、朝はずっと寝てしまい、決められた時間に朝の薬を飲むことができなくなってしまう。

【連絡会の意見】

- ・以前、連絡会の事例の中にグループホームを変えたら上手くいったことがあったが、グループホームの体制や支援者の声の掛け方など、次の入所先での対応が違ったら上手くいくのではないか。

⇒今後について、話し合いを持つ予定だが、本人が人を見下す傾向があり、世話人や職員を下に見ているが、関係性を見直せば上手くいくのかもしれない。

- ・「ぶっ殺す」等の暴言について、問題があるのではないか。医療や薬などで抑制することはできないのか。

⇒以前から、精神科の受診を勧めてきているが、母親が介護のケアマネジャーをしている関係でそういった話が受け入れられないことや苦勞した経緯がある。

- ・家族が寛容的であるのは、危険性の回避のためか。

⇒家族は本当に甘い。家族は、グループホームの対応が悪いと本人の味方をしているが、実際に本人が自宅に戻った場合、家族は疲弊していくと予測できる。

※家族や本人の思いを汲み取ることは、支援員として大変なことである。

○連携において課題と感じているケース

【現状】

児童支援と連動する居宅介護を中心としたサービス調整を必要とするケース（複数）

ひとり親家庭、もしくは両親ともに障害のある（もしくは障害があると強く類推される）ケースでのヘルパー導入に関する相談が相次ぐ。いずれも児童支援の支援者が関わっているが、児童の家庭生活環境の向上、親の生活力向上を目的にヘルパーの導入を考えたい。そのうえで障害福祉サービスを導入する際には家庭に対する支援主体を障害福祉分野に移したいとの意向が感じられる内容。

こうした場合にはサービスの対象主体が本人ではなく、家庭全体となってしまい、障害福祉サービスの前提として、家庭全体を対象とすることが妥当なのかという点に疑問を感じる。また、対象者数が多いとしても、児童の生活環境や状態に課題がある家庭の支援主体は、児童支援の分野が妥当ではないかとも考え、行政に相談する機会があった。

また、既に児童支援でヘルパーが入っている家庭で、親のヘルパーの導入がある場合（または児童支援のヘルパー終了に伴い、親のヘルパー導入となる場合）に児童支援で利用していた事業者が障害福祉サービスの指定を取っておらず、利用事業所の変更を余儀なくされる場合が多々ある。前述のような家庭にサービスが入る場合は児童、親いずれかに障害がある場合が多いため、事業所として障害指定を取っていてもよいのではないかと考えている。障害福祉サービスの指定を取っていない事業所に対しなんらかの取り組みができるのではないかと、それにより障害者のヘルパー事業所の選択肢が増やせるのではないかと考えている。

【連絡会の意見】

- ・関係機関との役割分担を相談支援として主張して動いていけばよいのではないかと。

3 今後のスケジュール

- ・「移動における支援」についてまとめた課題、方策への提言をより多くの方が共有し、取り組んでいくための資料を作成する。
- ・「8050問題」についての研修会を実施する。
- ・来年度の制度改定に向けての情報収集や対応のための理解を深めていく。